

## 今月の PICK UP

『新データで読む地域再生』 日本経済新聞社地域報道センター／編

日経 BP 日本経済新聞出版 318.6 ㊦



本書は、日本経済新聞2021年5月から2024年2月まで掲載された記事からデータ（数値情報）を集め、テーマごとに全国47都道府県のランキングを紹介したものです。例えば、子育てしやすい街1位は千葉県松戸市、個人所得1位は山形県、映画やテレビのロケ誘致1位は長崎県、自転車利用率1位は大阪府など各地のリアルな姿をデータで読み解くことができます。

滋賀県の1位は高度外国人材（高度な技術や専門的知識を持った外国人）採用率と、公立図書館の利用率です。自分の住んでいる県はどの順位にあるのか、データを見ながら読んでみると新しい発見があるかもしれません。 【本館所蔵】

『テヘランのすてきな女』 金井 真紀／文と絵 晶文社 367.2㊦

## 司書の おすすめ

イラン・イスラム共和国の首都、テヘランに暮らす女性たちのインタビュー&スケッチ集。スカーフの着用を義務付けられ、様々な抑圧の下にある彼女たちは、痛みを抱えながらもしなやかに、したたかに生きています。「どうかそれぞれがその人らしくいられますように。この人生を味わって進んでいけますように。」という著者の言葉が胸に響きます。



【本館所蔵】

『カラフル』 阿部 暁子／著 集英社 913.6㊦



高校入学式の朝、車いすユーザーにもかかわらずひたくり犯に立ち向かう少女・<sup>りっか</sup>六花を助けた伊澄。別れ際に笑顔で嫌味を言った彼女に「ヤな女」と感じますが、入学式で再会してから徐々に親しくなっていく。

身体的な理由で夢をあきらめた二人が、ままたらない現実に惑いながらも進んでいく様に胸が熱くなります。真っすぐな伊澄をはじめ登場人物はみな魅力的ですが、特に六花の凛とした姿は鮮烈な印象を残します。 【本館所蔵・ティーンズコーナーにあります】



『翻訳に生きて死んで』 クォン ナミ／著 藤田 麗子／訳 平凡社 929.1㊦

本書は、30年間に300冊以上の日本文学を韓国語に訳した翻訳家によるエッセイです。20代半ば数か月間のニート時代を経て、初めて翻訳の仕事が入ったものの出版社とのやりとりなど苦労も多かった駆け出しの頃、仕事が軌道に乗ってからの優雅とは無縁の締め切りに追われる日々など、翻訳家の日常や家族とのエピソードが軽妙で柔らかい文章で書かれています。「いい作品は私の活力」「素晴らしい作品の海にどっぷり浸かれる幸せな日々」という著者の言葉が印象的で、日本文学への愛が溢れています。 【本館所蔵】



『ミニ枯山水の世界』 柊野 俊明／著 家の光協会 629.2㊦



禅寺の庭でみられる枯山水を自分で作ってみませんか。簡素であることが特徴の庭形式なので、身近なものを利用して気軽に作ることができます。禅寺の住職、庭園デザイナーでもある著者が、道具や作り方、作る際の心もちも合わせて解説をしています。作ったミニ枯山水には、そのときの作り手の心が現れるそうです。できあがった作品に、気づかなかった自分を見出せるかもしれません。 【本館所蔵】

【本館所蔵】